

## 令和5年度第1回玉野市男女共同参画推進審議会会議録

日 時：令和5年8月9日（水）10:15～11:30

場 所：玉野市消防庁舎2階 防災センター

出席者：委員12名、事務局6名

### 1. 開 会

### 2. あいさつ（柴田市長）

### 3. 自己紹介

### 4. 議 事

- （1）男女共同参画行政の概要（令和4年度実績・令和5年度計画）  
（事務局より資料に基づき説明）

会長：

ただいまの説明に関してご意見、ご質問等があればお願いします。

委員：

30、33 ページの生理の貧困について、以前、教育委員会に中学校の女子トイレに生理用品を設置して、困ったとき誰でも使えるように整備をお願いしたことがある。教育委員会側は、「常時、設置するとすぐなくなってしまう。」と取り上げられなかった。将来、健やかな子どもを出産する女性の体のことを考えると生理用品の常時設置はしていかなければいけないと思う。教育委員会と協力して進めてほしい。

クラウドファンディングを活用するなど、積極的に考えてほしい。

高校は設置が決まったと聞いている。

事務局：

現在は、市の災害備蓄用品の更新時期に合わせて学校にも無料配布している。全部、こちらが用意するのではなく「自分の身体に必要なことは自分で用意できるように。」という学校の考えもある。市内中学校の2、3校が実験的に設置をして状況をみている。

委員：

3 ページ（3）男女共同参画の視に点立った教育の推進の命や性に関する学習機会の充実に関する施策で今年度の計画として、具体的に玉中学校3年生とあげられている。また、11 ページ（10）性と生殖に関する教育の充実及び母子保健サービスの充実の命や

性に関する学習機会の充実で今年度の計画として、ここでも玉中学校3年生とあげられているが、同じ学校でしか実施していないようであるが、市内の他の学校でも実施するべきではと考えるが、どうしてか。

委員：

この事業は愛育委員も以前から関わっているもので、始めてから何年も経過している。玉中学校で実施する主な理由は、生徒が徒歩ですこやかセンターに行くことができる、ということが大きい。宇野中学校でも実施を検討した経緯はあるそうだが、生徒が自転車ですこやかセンターに行くことには課題があるようだ。今年度は、宇野中学校にお母さんと赤ちゃんに来てもらい、赤ちゃんとのふれあい体験を計画している、と聞いている。

委員：

本校では、玉中学校のように赤ちゃんとのふれあい体験はできないが、赤ちゃん人形のだっこ体験や妊婦体験ジャケットを着けて妊婦の大変さを実感する授業を行った。妊婦体験のジャケットを着けた生徒は、足下が見えないことに驚いていた。このような授業は、市内の中学校では行っていると思う。

事務局：

詳しいことは、計画をした健康増進課に確認する。

委員：

11 ページの不妊・不育に対する支援の施策では、令和4年度の決算額より、今年度の予算額が増加している。市が取り組むのは、有り難いことなので今後も継続してもらいたい。

10 ページの(9)生涯を通じた男女の健康の包括的な支援について、無料クーポン券の利用者が少ない。ナイター検診を増やす等してはどうか、また、今後はどのような取組をしていくのか。

事務局：

検診の受診者が少ないのは、仕事先の健康診断や人間ドックを受けている人が市の検診を利用しないのではないかと思われる。健康増進課に今後の啓発をお願いする。

委員：

「男女参画行政の概要」に「ヤングケアラー」という文言が全く入っていない。各方面では取組をされている。学校関係からの情報提供をしてもらって取り組んでいただきたい。

委員：

14 ページ (15) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくりについて、市の男性職員の育児休暇取得率が高く、評価している。一般企業の従業員も仕事と育児のバランスをとって週に一日余暇を楽しむ日を設けてもらいたいと考えているが、一般企業の男性の育児休暇取得率は把握しているか。また、市の方で企業に何か働き掛けはできないか。総務課としての考えを聞きたい。

事務局：

一般企業の男性の育児休暇取得率については、県の統計などを確認し、後日報告する。一般企業では周囲がカバーする環境ができていないと難しい。一般企業に対して直接的に声をかけづらく、タッグを組みにくい。

## (2) LGBT等性的マイノリティへの理解促進に向けて

(事務局より資料に基づき説明)

事務局：

訂正箇所があります。3 岡山县内他自治体の動きの【連携中枢都市圏事業】で井原市を備前市に訂正してください。

会長：

ただいまの説明に関してご意見、ご質問等があればお願いします。

委員：

パートナーシップの導入は、多様な性に理解のある社会をつくってから、とのことだが、理解には時間がかかるので、まず制度を導入し、パートナーシップありきで理解促進を進めるべき。当事者の方が移住先を決めるときは、安心してパートナーシップの導入をしている市町村を選ぶと思う。

委員：

委員に同感で導入・試行してから理解促進、啓発をすべきと思う。知識のないシニア層などには、出向いて教育や啓発をしていくのがいいと思う。

委員：

先週、熊本で性教育の全国大会があり、岡大医学部の中塚先生に講師を依頼したところ、先進国で同性婚を認めていない国は日本だけという現状であった。私もパートナーシップを導入してほしいと思う。性的マイノリティの方がカミングアウトできないのは事実でカミングアウトできるよう支援が必要だと思う。

委員：

教職員の理解は進んでいると思う。そういう方針でやっている。性教育や保健体育の

授業でジェンダレス、LGBTQのことは学習している。また、保健師を講師に迎えて指導もしてもらったり、講演会を行ったりしている。

制服も替わった。

委員：

LGBTの方の話を聞いて発達障害の子どものことを考えた。発達障害の子どもの割合は約8%で1学級に2～3人はいた。以前は変わった子とか躰ができてないとか言われていたが、研究が進み、医学的に解明されると周囲も理解するようになり、教育も子どもに合ったものになってきた。性的マイノリティの方も同じだと考える。啓発と導入はどちらが先か。アピールできる、関心をもってもらえるよう、時間をかけて理解してもらわなければいけないと思う。

委員：

理解も大切だが、人としてどう関わっていくか、想像力を高めていかないと差別をしてしまう。導入したいが自分に何ができるのか、家庭でできることは何か、発信することなどできることがあると思った。

市長：

今日いただいた意見は重く受け止めて進めていきたい。そして、導入を前向きに考えたいと思う。

事務局：

たくさんの意見をいただきありがたい。箱が先か中が先かということで、どういうタイミングで実施するかは客観性をもって検討をしていきたい。

会長：

他にご意見・ご質問は？  
(意見・質問なし)

### (3) その他

会長：

これで、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。委員の皆様からご意見等何かございますでしょうか。

委員：

健康寿命が全国1位の長野県では食事の時間に栄養指導員を派遣して食生活指導をしているらしいが、玉野市でも長野県がしているいいところをまねしてほしい。

市長：

以前、長野県には訪問したことがある。参考にしていきたい。

## 5. そ の 他

会長：

他にご意見等何かございますでしょうか。

(意見・質問なし)

## 6. 閉会のあいさつ（副会長）

## 7. 閉 会